

日時	2012.04.29(日)～30日(月)		
山域	八ッ・阿弥陀岳(2805m)～赤岳(2899m)～横岳(2825m)～硫黄岳(2760m)		
参加者	後藤隆徳、村山忠彦、小松眞明、香取正広、(庄野 修)		
標高差	上り	赤岳山荘約1700m～阿弥陀岳2805m＝約1105m 中岳沢コル約2650m～中岳約2700m＝約50m 中岳東コル約2650m～赤岳2899m＝約249m 地藏尾根頭約2700m～横岳2825m＝約125m	合計＝約1529m
	下り	硫黄岳2760m～赤岳山荘約1700m＝1060m	



1. 赤岳山荘発7:20

Gさんから声を掛けてもらい休みのスケジュールも合ったので二つ返事で参加させてもらうことにした。雪のある季節の八ヶ岳は約30年ぶりとなる。

Gさん宅に前日に泊めてもらい歓待を受ける。

朝5時前に出発し途中でメンバーを拾い一路美濃戸口に向かう。天気は快晴。風も穏やかでまさに春山登山日和だ。

美濃戸口からはさらに林道を奥まで車で入ることが出来、赤岳山荘の駐車場に車を停める。

2. 中岳沢10:30

赤岳山荘からアイゼンを装着せずに北沢を進むが途中、林の中の日陰の積雪が氷化し次第にすべりやすくなったためアイゼンを装着する。

途中でテントを担いで登る単独行の若い女性と会い立ち話をする。テント泊が好きらしい。日本の山ガールは元気だ。

しばらく行くと行者小屋に到着。小休止。軽く行動食を食べすぐに出発。



3. 阿弥陀岳11:05

中岳沢を登る。沢筋の急峻な斜面が続く中、阿弥陀の山容が大きく迫ってくる。沢の中程には数日前の降雪が雪崩れた後のデブリが多く残っている。コルから阿弥陀岳の登りも急登でピッケルを深く差し込みながら慎重に登る。阿弥陀の頂上からの折り返しの下りも目の前が“スツ”と切れ落ちていてスリルがあります。

先程登ってきたコルまで戻り前方に見える赤岳を目指す。さっきまで快晴だった天気も徐々に高曇りになってきた。





4. 赤岳 13 : 05

尾根道をまっすぐ登り詰め岩場を左に回り少し進むと赤岳頂上に出た。頂上では先行の数パーティーが休憩していた。皆で集合写真を撮ってもらい先を急ぐ。行程的にちょっと遅れ気味なのであまりゆっくり出来ない。この頃よりMさんは足を痛め少し遅れ出したために、用心してひとり地蔵の頭から地蔵尾根を下り行者小屋に向かうこととなった。Mさんと別れ横岳の岩場の鎖場や微妙な雪壁のトラバースが続く少し緊張しながらもピッケルを差し慎重に進む。

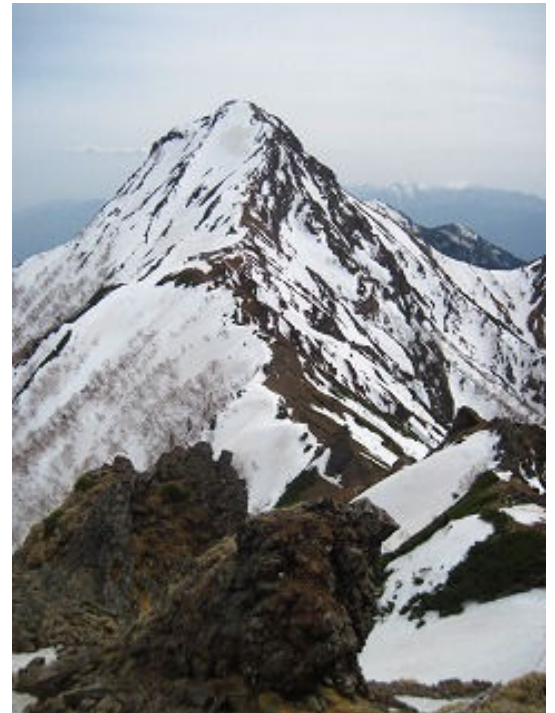
5. 横岳 15 : 20

横岳を越えるとはるか前方下に本日宿泊する硫黄岳小屋が見える。石コロが多いなだらかな斜面を下る。足に疲労を感じ始めるころやっと硫黄岳小屋到着。16:10。久しぶりの荷を背負って長い行程で都会生活になれた体に応えました。“フーッ”

小屋では既に別のルートから旧友のSさんが先着しており少し休憩した後さっそく宴会となりました。ビール、ワイン、熱燗を飲みながらSさんGさんはご機嫌だ。僕もそれほど飲んだわけでもないのに酔って眠くなってきてしまった。

翌日の朝食は6 : 00～の予定が早まって5 : 30～。別ルートを周り美濃戸から車に同乗してゆく約束したSさんはすでに出発していた。

朝食を済ませ6 : 05硫黄小屋を出発。天気は高曇りでも安定しており天気の崩れはしばらくはなさそうだ。なだらかな斜面を少し登ると硫黄岳の頂上に出た。



6. 硫黄岳（30日）6 : 25

硫黄岳の頂上は少し風がある。眺望もきき、昨日歩いてきたルートがよく見える。硫黄岳の稜線から赤岳鉱泉小屋へ分岐する部分からはアイゼンを装着して下る。雪の量はけっこう多い。

赤岳鉱泉小屋を越えた少し先で先に下っていたMさんと合流した。足の調子はその後何とか大丈夫のようで良かった。赤岳鉱泉小屋からの下りは雪の量が少なくアイゼンを外して歩く。

しばらくして美濃戸の駐車場に到着9 : 10。

しばらく駐車場で待っているとSさんと合流出来た。

帰りは例によってお風呂とお蕎麦をビールでお互いの健闘をたたえつつ楽しい山の疲れを癒すことができました。皆さんどうもありがとうございました。



阿弥陀岳
上り



阿弥陀様



中岳

赤岳下り



赤岳頂上



美濃戸山荘の
ソフトクリーム



硫黄岳山荘の
Sさん

赤岳山荘着 9:10



- 1 柳沢南沢は北面に道がついている。そこを多くの登山者が歩くので、雪はガッチリ氷化し、かなり下からアイゼンを必要とした。逆に北沢は南面に道があるので、南沢ほど酷くなかった。名前と逆です。
- 2 中岳沢はかつて、1982年、神戸みなと労山が雪崩事故で、死者12名、負傷者1名を出したところ。ここは12月～4月は入ってはいけない沢。4月の新雪のデブリがあった。
- 3 中岳のコルから阿弥陀岳は厳しい上りで、転落・滑落事故が多いところ。ここを、軽アイゼン、ピッケルなしで上っている輩がいた。慣れた人でも難しい場所なのに困ったものです。以前も3月、赤岳を長靴で上っている輩もいましたが・・・。
- 4 赤岳の上りは、2～3月に比べると楽だった。
- 5 天望荘に、2で記述の女性がいた。聞けば愛知から来たという。職域山岳会で仲間が多いとのこと。ただ、職域山岳会は、皆で一斉に休暇を取り難い。
- 6 天望荘でビアを購入したら、断られた。理由は「行動中でしょう」だった。ご尤もです。今後、このような小屋が増えるかもしれない。しかし、小缶ビア1本で問題があるだろうか？。ビアは栄養があるので、個人差があるとだろうが、私はむしろ元気が出ると思っている。ただ、何かあれば、皆さんに迷惑を掛けることは事実。
- 7 横岳の往来は問題なかった。ただ、昔ここで静岡体文協のツアーで、安本さんが滑落事故で亡くなっている。その話を、硫黄岳山荘でしたら、栃木の年配の方が知っていた。本多勝一さんの記事で知ったそうです。なお、さわやかハイクのIさんは、独身時代ここ主催の他のツアーに参加していた。だから、事故が起こったツアーのIリーダーを知っていた。
- 8 横岳の最後のピークに来ると23名の韓国男女登山者がワイワイやっている。またしても、全員ピッケルを持っていないので、雪壁にザイルを張って後ろ向きで下っている。時間は既に15:20。聞けば、これから天望荘まで行くという。我々は天望荘から1時間20分掛かっている。その時間で行っても、小屋到着は17時。恐らく、それ以上掛かるだろうから、日没ギリギリの時間だ。リーダーに話したが暢気なものだった。パーティーも意外と明るい。天気が安定しているから良いものの、困ったものだ。
小屋でそんな話題が出たが、韓国は徴兵制があり、案外、困難・苦難に平気・耐えられるの話だが、根本的に問題が違うでしょう。



韓国隊



- 9 硫黄岳山荘は、一度泊まってみたかった小屋。トイレは水洗。食事はまあまあ。熱燗をつけてくれたり、親切だった。
- 10 山行は、必要最低限の荷物、最大限の軽量化。日ごろからハイキング等で、心身体を鍛え、強靱な体力、しなやかな心身を養いましょう。